

ナラ枯れ被害に要注意!

ナラ枯れとは?

「カシノナガキクイムシ」が運ぶ「ナラ菌」(病原菌)によって枯死する樹木の流行病です。

1980年代後半から、日本海側の府県を中心に被害が拡大していましたが、近年では太平洋側地域にも被害が拡大しています。

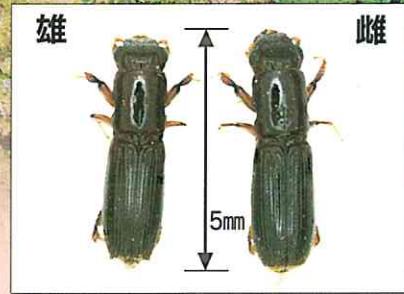


写真1 カシノナガキクイムシ

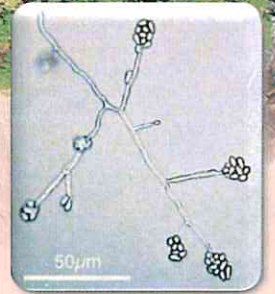


写真2 ナラ菌

(写真2提供 独立行政法人森林総合研究所関西支所)

被害の特徴は?



夏に葉が一齐に萎(しお)れる



根元には大量の木くずが発生



幹には2mm程度の穴が多数

幹に見られる小さな穴(穿入孔)は、カシノナガキクイムシが穿入した際に空けられたものです。穿入したカシノナガキクイムシが、長く複雑な坑道を掘り、大量の木くずが根元に堆積しています。

どのような樹木が枯れる?

ブナ科のコナラ属を中心に被害が発生します。岩手県では、ミズナラ、コナラ、クリ、クヌギ、カシワが危険で、特に、ミズナラ、しかも大径木が最も危険です。

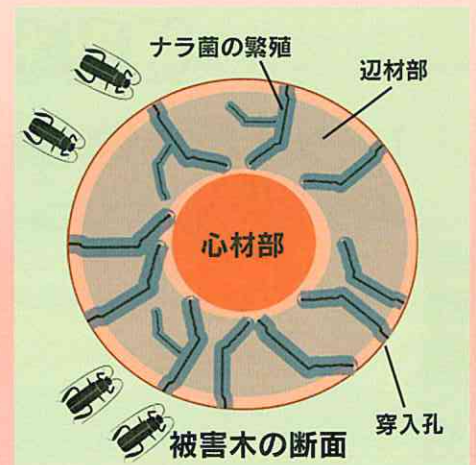


ミズナラ

コナラ

なぜ枯れる?

大量のカシノナガキクイムシが坑道を掘り、ナラ菌が繁殖します。坑道の掘削とナラ菌によって、辺材部の通水機能が喪失します。水を吸えなくなった樹木はやがて枯死します。

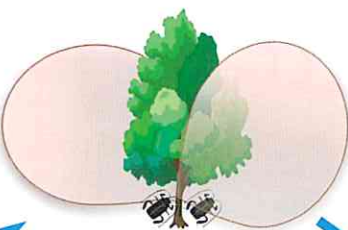


✧ 岩手県

被害拡大のしくみ

7～8月

はじめに雄が穿入し、集合フェロモンと樹木の揮発成分(カイロモン)が発散されます。



7～8月

揮発成分やフェロモンを頼りに多くの成虫(雌雄)が集まり、穿入します。



7月

前年の被害木から新成虫が羽化・脱出します。
1本当たりの脱出数は、平均1～2万頭に達します。



7月～翌年6月

集中的に穿入を受けた樹木内ではナラ菌が蔓延し、やがて枯れます。雌雄は坑道内で産卵し、次の世代の幼虫が育ちます。

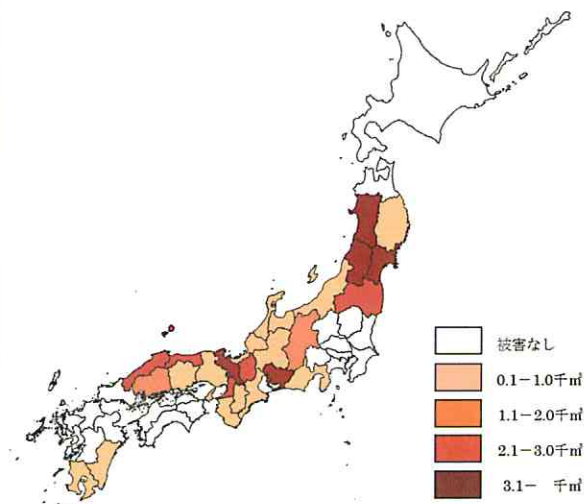
全国で被害が広がる!

平成22年、岩手県初のナラ枯れ被害木が奥州市(胆沢区)で確認され、平成26年は、一関市と大船渡市、釜石市で被害が発生しています。全国では、26都府県に被害が広がっています。

被害地域からのナラ類の移動は危険!

カシノナガキクイムシが発生している被害木を移動することで、被害が拡大することがあります。被害地周辺では、伐採したナラ類の移動を控えるなど、注意が必要です。

被害発生都道府県(被害量)



被害木の発見にご協力ください!

「ナラ枯れ」が疑われる樹木を発見した際は、最寄りの広域振興局・農林振興センター、市町村林業担当課にご連絡ください。